

## Ⅱ. 第 69 回国民体育大会（長崎県）における国体女子種目導入に関する調査

本調査研究は、女性アスリート強化における課題解決に向け、中央競技団体が国体へ参画することにより集積されるエビデンスから、競技力向上に寄与する国体の機能性を明らかにするものである。

平成 26 年度調査においては、女性アスリートの強化促進の要因について以下の仮説を設定し、その検証を試みている。

i. 強化戦略の基盤となる当該種目の普及・育成の観点から、国体への導入は、観戦した地域住民（児童・生徒、一般成人）の興味関心を喚起する。また、同様に当該種目の実施意欲を喚起する

[イベント事業の観戦者に対するアンケート調査より検証]

ii. 国体への導入は、選手自身の強化課題を明確にし、国体（全国レベルの大会）への参加意欲を高める

[イベント事業の参加選手に対するアンケート調査およびヒアリング調査より検証]

iii. 当該種目を新たに導入する中央競技団体は、女性アスリート強化における課題を明確にし、戦略的強化策の立案、遂行が可能となる

[中央競技団体に対するヒアリング調査より検証]

# 調査概要

## 1. 調査対象

- ①正式種目導入予定の6種目（水球、ボクシング、レスリング、ウエイトリフティング、自転車、ラグビーフットボール）の中央競技団体が国体会期中に主催するイベント事業の観戦者
- ②上記イベント事業の参加選手
- ③当該中央競技団体の普及・強化担当者

## 2. 調査実施主体

日本体育協会、該当する中央競技団体

## 3. 調査方法

### ①イベント事業の観戦者調査

各イベント事業実施会場に来場した観戦者を対象に、アンケート調査を行った。アンケート用紙はイベント事業の後半に調査員が配布し、イベント事業終了後に回収した。対象は便宜的抽出により7歳以上の小学生・中学生・高校生の女子児童・生徒と、19歳以上の一般成人とした。

### ②イベント事業の参加選手調査

イベント事業に参加した全選手を対象に、アンケート調査を行った。また、各中央競技団体が無作為に抽出した選手数名を対象に、ヒアリング調査を行った。アンケートはイベント事業終了後に各中央競技団体担当者から選手へ配布し、回収。ヒアリング調査は、各会場の会議室にて質問者2名による面接法で行い、所要時間は20～30分であった。

### ③中央競技団体担当者に対する調査

長崎国体終了後、普及および強化のビジョンや施策の立案を行っている当該6種目の中央競技団体担当者を対象に、ヒアリング調査を実施した。調査は日本体育協会会議室にて、質問者数名による面接法で行い、所要時間は1団体約60分であった。

## 4. 調査内容

### ①イベント事業の観戦者調査

性別（一般成人限定）、年齢、居住地、スポーツ実施種目、当該種目への興味関心、当該種目の実施意欲、イベント事業の各種印象等

②イベント事業の参加選手調査

アンケート調査…国体への正式種目導入に際し期待する事柄、当該種目の普及・強化  
に対する意識、将来的な国体への参加意欲等

ヒアリング調査…種目を始める契機や動機、現在の関わり方、国体（イベント事業）  
に出場した感想・印象、個人としての課題や必要とする支援等

③中央競技団体担当者に対する調査

長崎国体での調査結果の説明、女性競技者（指導者）の普及・発掘・育成に向けた  
取り組み、2020年東京オリンピックに向けた取り組み等

5. 調査期間

①②平成26年9月10日（水）～平成26年10月20日（月）

③平成27年1月14日（水）～平成27年1月15日（木）

6. 回収率

		水球	自転車	ボクシング	ウエイトリフティング	ラグビーフットボール	レスリング	対象別計
児童・生徒	配布数	8	5	100	30	160	—	303
	回収数	6	5	73	28	143		255
	有効回答数	6	2	70	27	143		248
	有効回収率	75.0%	40.0%	70.0%	90.0%	89.4%		81.8%
一般成人	配布数	100	150	100	50	130		530
	回収数	89	135	78	35	98		435
	有効回答数	88	133	77	34	96		428
	有効回収率	88.0%	88.7%	77.0%	68.0%	73.8%		80.8%
選手	回収数	22	15	0	5	24		66
	有効回答率	100%	100%	0%	100%	100%		100%
有効回答計(種目別)		116	150	147	66	263	742	

※レスリングは台風の影響によるイベント事業中止のため、調査を実施していない。

## 7. ヒアリング調査の対象一覧

### (1) 参加選手

日時	種目	ヒアリング対象者(所属)
9月10日	水球	中野 由美(藤村/東京都立桜町高等学校教員) 志賀 美沙(藤村/主婦) 曲山 紫乃(日体クラブ/SV Bayer Uerdingen・ドイツ)
10月15日	自転車	塚越 さくら(鹿屋体育大学) 元砂 七夕美(日本競輪学校)
10月16日	ボクシング	和田 まどか(芦屋大学/奈良県連盟) 秋山 優女(早稲田大学/東京都連盟)
10月17日	ウェイトリフティング	平良 真理(沖縄工業高等学校教員) ※イベント事業解説者
10月20日	ラグビーフットボール	南 早紀(日本体育大学/福岡県選抜) 末 結希(東京学芸大学/長崎県選抜)

※レスリングは悪天候によるイベント事業中止のため調査を実施していないが、本報告には、2014年8月に吉田沙保里選手(総合警備保障)に対し意見聴取を行った結果を一部引用する。

### (2) 中央競技団体

日時	団体名	ヒアリング対象者(役職)
1月14日	(公財)日本水泳連盟	常務理事 鈴木 浩二 理事・水球委員長 原 朗
1月14日	(公財)日本レスリング協会	理事・事務局長 菅 芳松 理事 末柄 勝
1月14日	(一社)日本ボクシング連盟	常務理事 樋山 茂
1月14日	(公財)日本自転車競技連盟	常務理事 松倉 信裕 事務局 白崎 孝紀
1月15日	(一社)日本ウェイトリフティング協会	常務理事 篠宮 稔
1月15日	(公財)日本ラグビーフットボール協会	国体部門長 磯村 幸二 事務局 永井 康隆

## 1. 国体のイベント事業観戦者に対する調査結果

イベント事業では、主にエキシビション形式の試合が行われ、観戦のため多くの地域住民が会場に訪れた。今回の調査は、当該イベント事業を観戦した地域住民を小学生・中学生・高校生の女子（以下、児童・生徒）と19歳以上の成人男女（以下、一般成人）に区分し、アンケートを用いイベント事業に関する各種意識について聴取している。

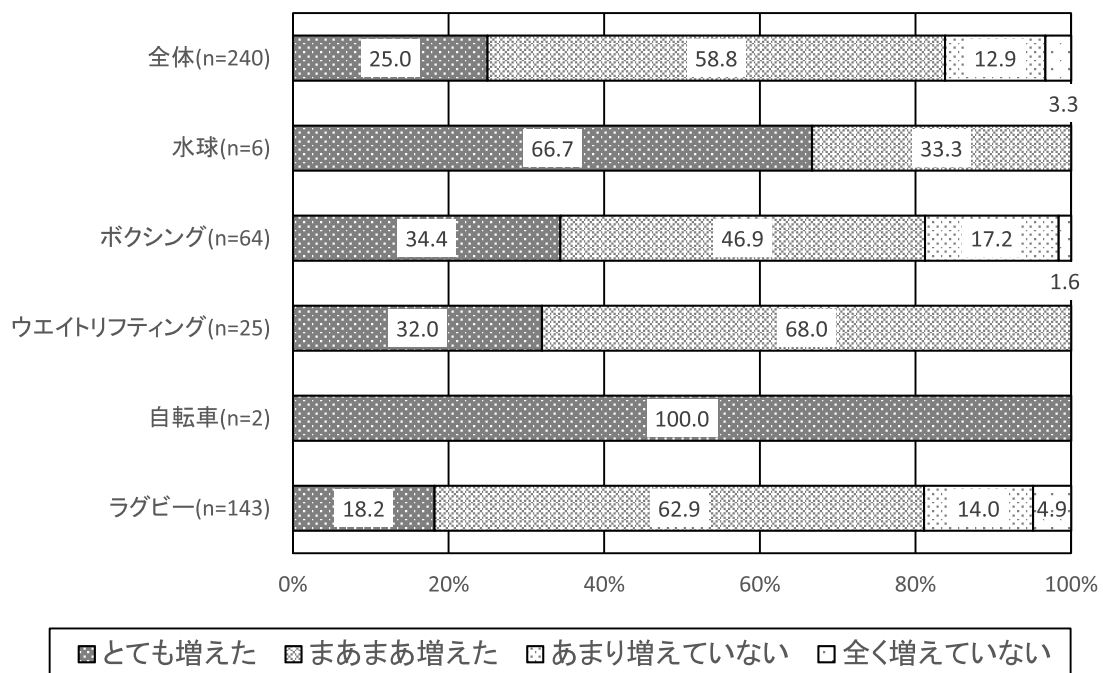
### (1) 当該種目に対する興味関心度について

観戦した児童・生徒の当該種目に対する興味関心度については、「とても増えた」25.0%、「まあまあ増えた」58.8%となっている（図表1）。全体の約8割が当該種目に対して何らかの興味関心を抱いたことが確認できる。種目別にみると、回収数のばらつきはあるものの、比較的回答者の多いボクシング81.3%（とても増えた34.4%、まあまあ増えた46.9%の合算）、ラグビーフットボール81.1%（とても増えた18.2%、まあまあ増えた62.9%の合算）を代表に、各種目とも高い興味関心度を確認することができる。

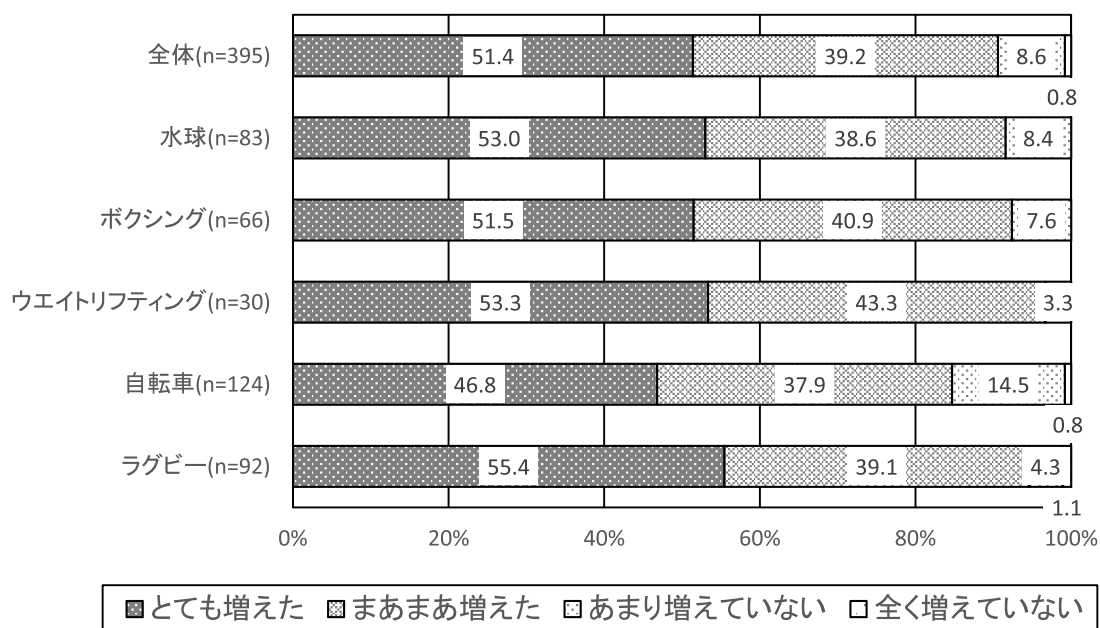
一般成人は、「とても増えた」51.4%、「まあまあ増えた」39.2%と約9割が興味関心度を高めており、児童・生徒よりも顕著であることがわかる（図表2）。競技別にみても同様の傾向であり、最も多く興味関心を集めたのはラグビーフットボール（とても増えた55.4%）であった。

これらの結果から、児童・生徒および一般成人ともに、国体における当該種目のイベント事業を観戦することで、その種目への興味関心度を高める傾向にあることが明らかになった。

図表1 当該種目を観戦した児童・生徒の興味関心度の変化（全体・競技別）



図表 2 当該種目を観戦した一般成人の興味関心度の変化（全体・競技別）



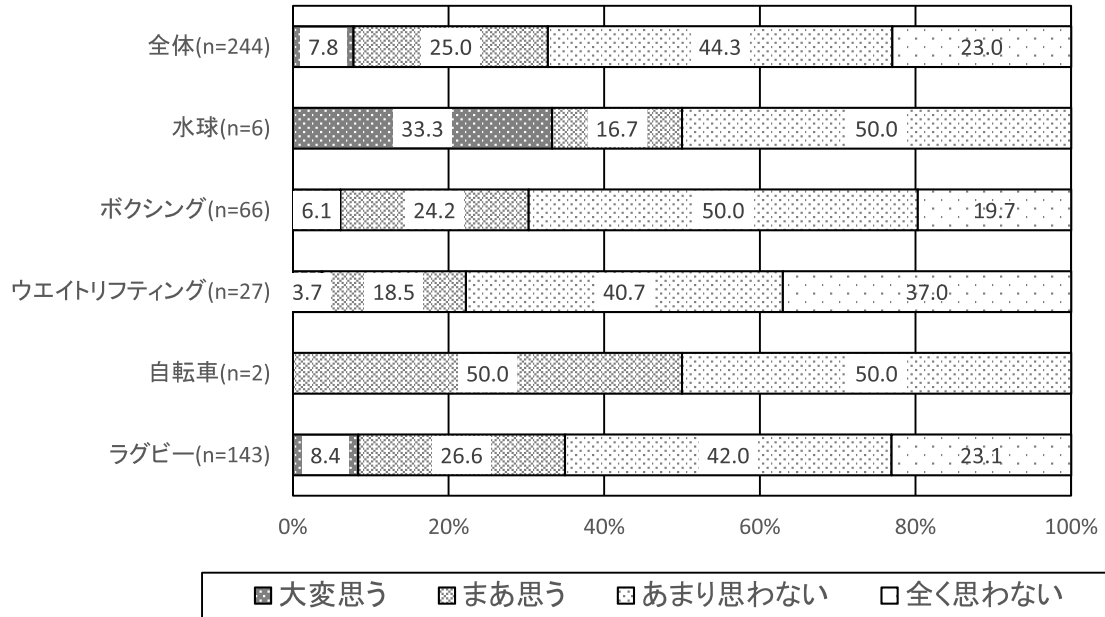
## (2) 当該種目に対する実施意欲について

児童・生徒の当該種目に対する今後の実施意欲（指導の希望を含む）については、「大変思う」7.8%、「まあ思う」25.0%となっており、全体の約3割が実施意欲を示している（図表 3）。種目別にみると、水球では「大変思う」33.3%と最も多く、回収数の多かったラグビーフットボールにおいては「大変思う」8.4%、「まあ思う」26.6%と3割強の児童・生徒が実施意欲を示した。

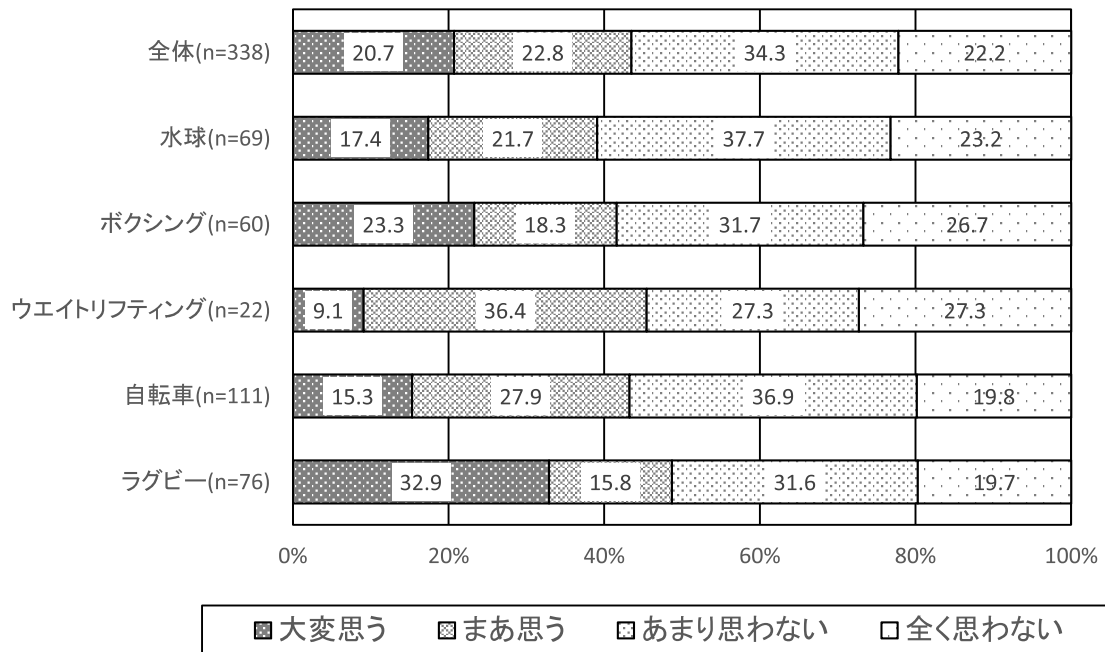
一般成人は、「大変思う」20.7%、「まあ思う」22.8%と約4割が実施意欲を示し、児童・生徒よりも顕著であることがわかる（図表 4）。競技別にみても同様の傾向であり、最も多く興味関心を集めたのはラグビーフットボール（とても増えた32.9%）であった。

当該種目のイベント事業を観戦することで、実際にその種目を実施してみたい（指導を受けてみたい）と意識する観戦者は約4割に上ることが明らかになった。

図表3 当該種目を観戦した児童・生徒の実施意欲の変化（全体・競技別）



図表4 当該種目を観戦した一般成人の実施意欲の変化（全体・競技別）



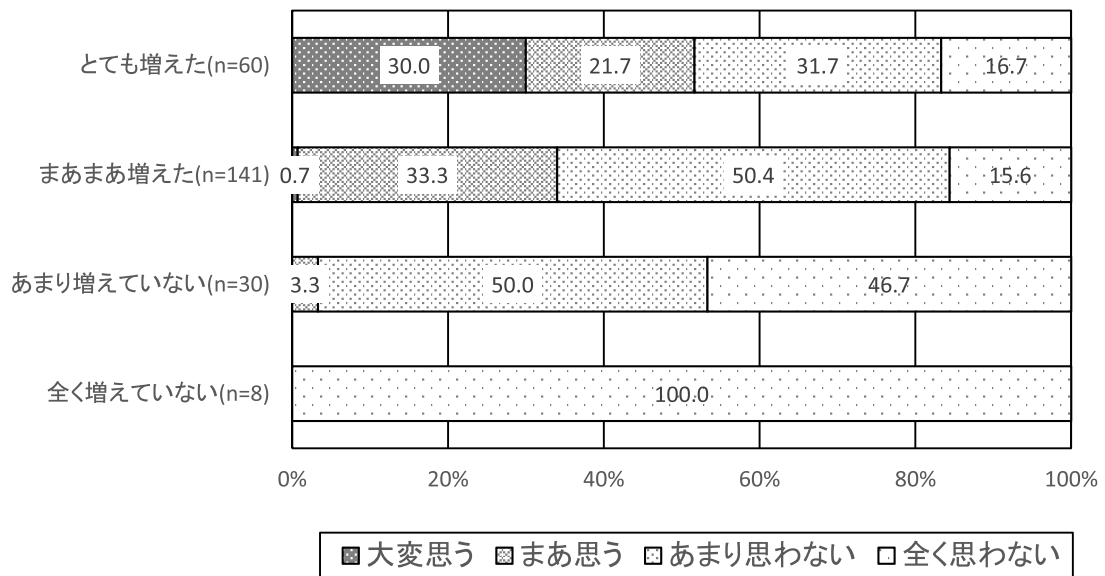
(3) イベント事業に対する観戦者の各種評価について

① 当該種目への興味関心度と実施意欲の関係性

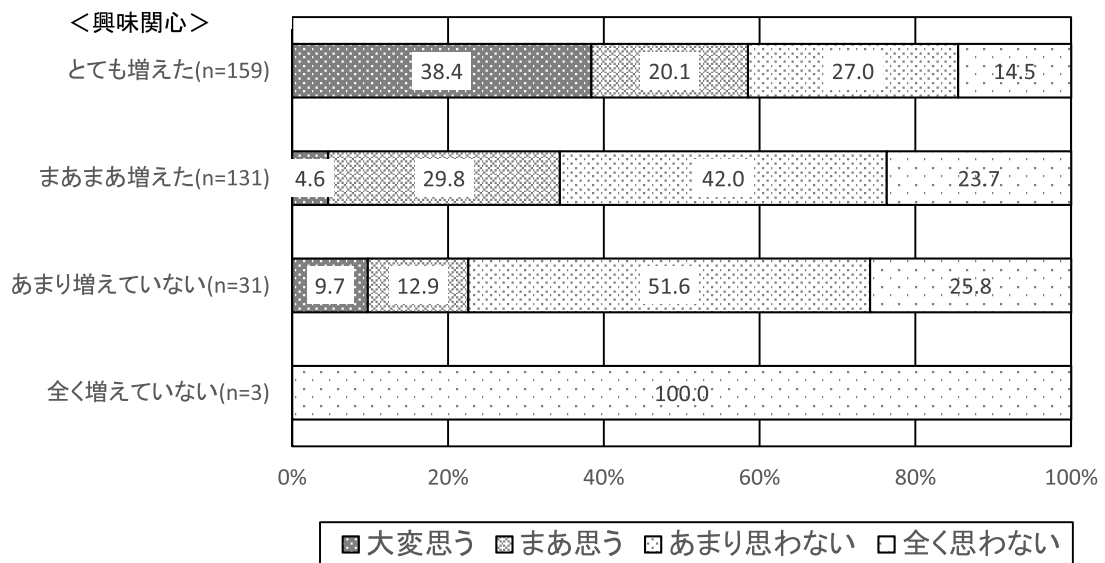
図表5・6は、イベント事業を観戦したことによる当該種目の興味関心度の高まりと、今後の当該種目に対する実施意欲の関係性について示している。

児童・生徒、一般成人ともに、当該種目に対する興味関心を高めることで、将来的な種目実施意欲を喚起することが推察できる。

図表5 当該種目を観戦した児童・生徒の興味関心度と実施意欲の関係



図表6 当該種目を観戦した一般成人の興味関心度と実施意欲の関係

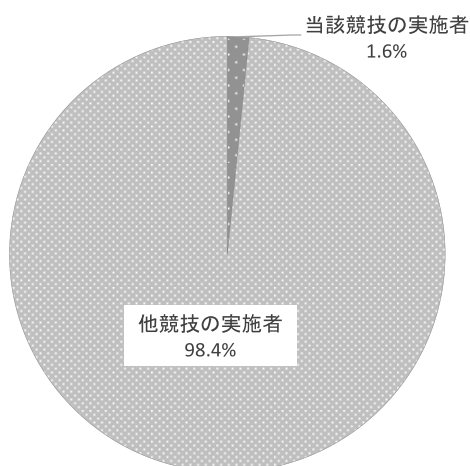




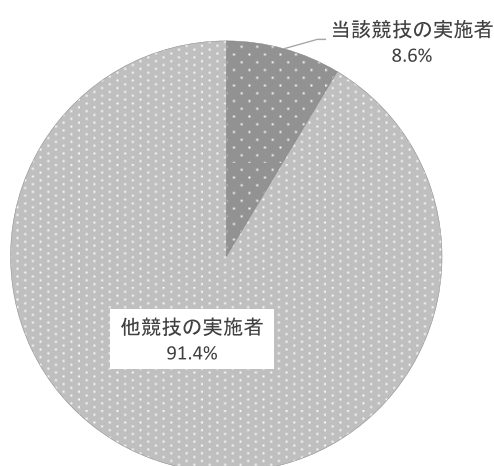
## ②当該種目以外のスポーツ実施

今回のイベント事業観戦者のうち、9割以上が、現在他種目を行っている者であった（図表7・8）。当該種目の競技人口拡大の観点からも、他競技（他種目）の実施者に対する興味関心および実施意欲の喚起も必要となり、当該イベント事業はその機会になり得ると予測できる（図表9・10）。

図表7 現在の種目実施状況（児童・生徒）



図表8 現在の種目実施状況（一般成人）



図表9 現在の実施種目（児童・生徒、競技別、上位5種目）

		上位5種目									
		1位	n	2位	n	3位	n	4位	n	5位	n
水球	(n=6)	ハンドボール	1	水泳	1						
自転車	(n=2)	水泳	1								
ボクシング	(n=70)	バスケットボール	10	空手道	5	バレーボール	3	剣道	2	サッカー、テニス、水泳、卓球	1
ウエトリフティング	(n=27)	太鼓	5	陸上競技	2						
ラグビー	(n=143)	バスケットボール	15	卓球	15	バドミントン	13	バレーボール	12	テニス	10

図表10 現在の実施種目（一般成人、競技別、上位5種目）

		上位5種目									
		1位	n	2位	n	3位	n	4位	n	5位	n
水球	(n=89)	水泳	9	バドミントン 5、ゴルフ 5、ウォーキング 5					テニス、サッカー		3
自転車	(n=133)	ゴルフ	10	マラソン	8	水泳 5、ウォーキング 5、テニス 5					
ボクシング	(n=77)	バレーボール	9	ゴルフ 2、ソフトボール 2、テニス 2、陸上競技 2							
ウエトリフティング	(n=34)	ゴルフ	2	水球 1、バレーボール 1、陸上競技 1、空手道 1							
ラグビー	(n=96)	バレーボール	5	バスケットボール 3、テニス 3					陸上競技		2

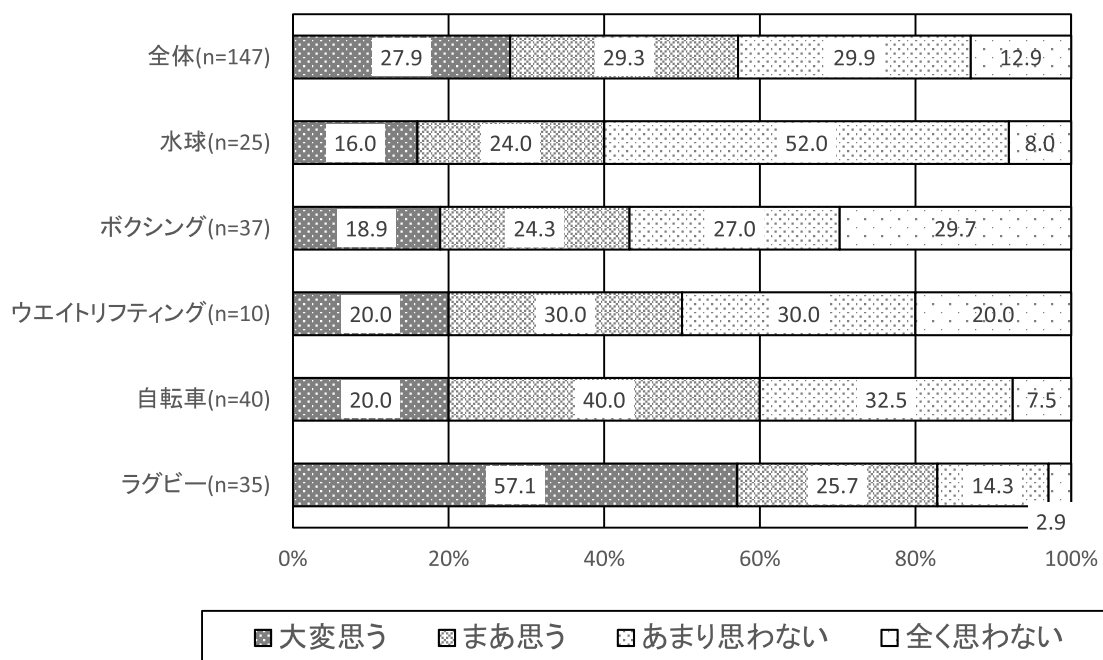
### ③親の意識

子どもまたは孫がいる一般成人（平均年齢 53.9 歳）に対し、子ども（孫）に当該種目をさせてみたいか（指導を受けさせてみたいか）を訊ねた（図表 11）。当該種目を既に実施している子ども（孫）を持つ一般成人は除外している。

「思う」とする者は 57.2%（大変思う 27.9%、まあ思う 29.3%の合算）となっており、観戦に来た子ども（孫）を持つ親の約半数は、当該種目を子ども（孫）に勧めても良いと感じている。

種目別にみると、「思う」とする者（大変思う+まあ思う）が最も多いのはラグビーフットボール（82.8%）であり、次いで自転車（60.0%）、ウエイトリフティング（50.0%）であった。

図表 11 子ども（孫）に対し当該種目の実施を勧めるか



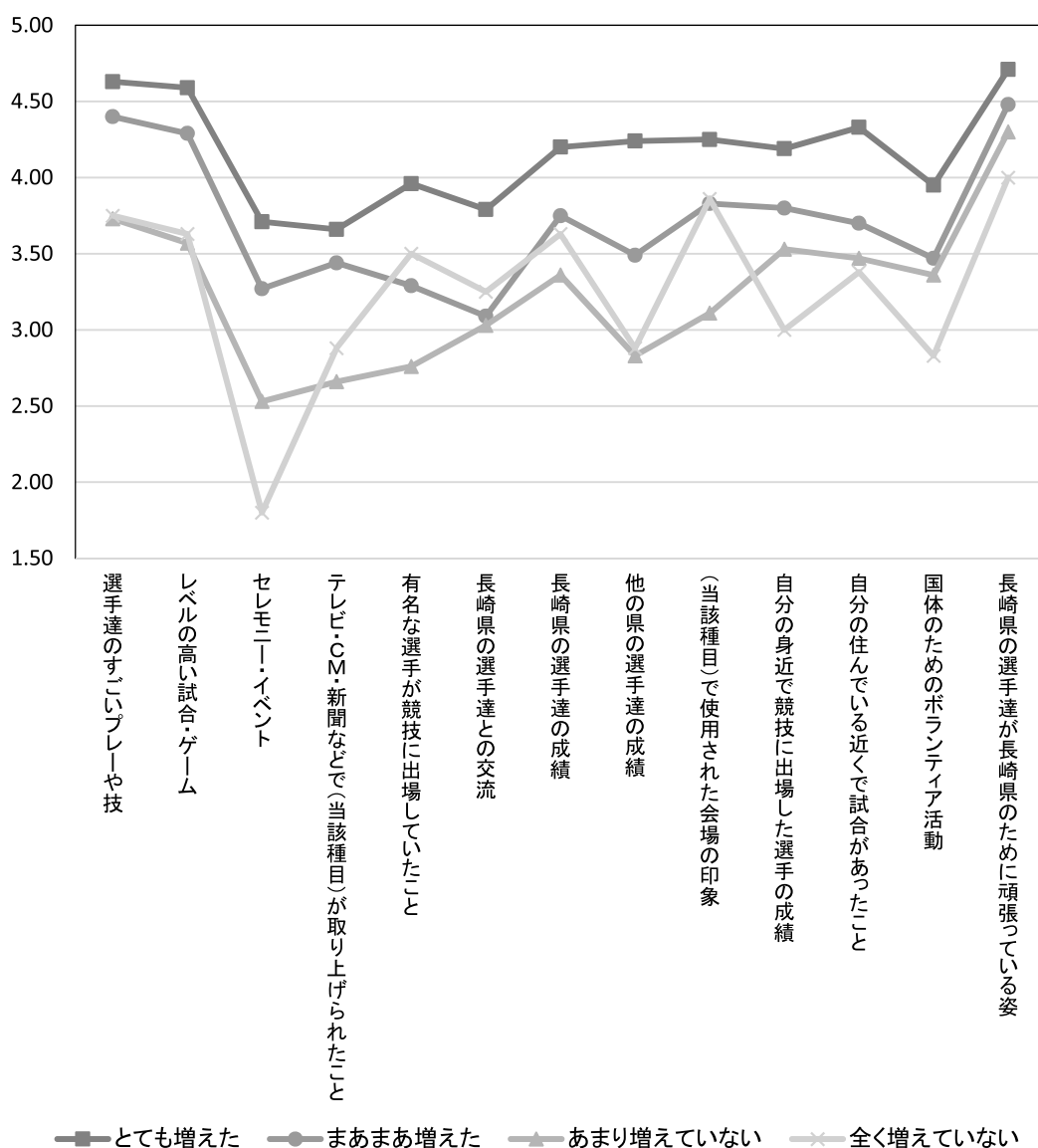
### ④イベント事業に対する印象

児童・生徒に対し、イベント事業に関する各種事柄が「どのくらい心に残っているか」について、「1. まったく心に残っていない」～「5. とても心に残っている」の5件法により訊ねた。その結果を児童・生徒の当該種目に対する興味関心度別により比較した（図表 12）。

当該種目への興味関心に関わらず、強く印象に残った事柄は「長崎県の選手たちが長崎県のために頑張っている姿」（全体平均 4.50）であり、次いで「選手たちのすごいプレーや技」（全体平均 4.35）、「レベルの高い試合・ゲーム」（全体平均 4.25）の順であった。

当該種目に対する児童・生徒の興味関心を喚起させたイベント事業の内容は、「選手達のすごいプレーや技」「レベルの高い試合・ゲーム」といった高い競技力に関連するものと、「セレモニー・イベント事業」「テレビ・CM・新聞などで（当該種目が）取り上げられたこと」など、メディアへの露出やセレモニーなど、イベント事業性に関連するものなどが確認できた。

図表 12 当該イベント事業（国体）に対する印象度（児童・生徒、興味関心度別）



	全体 (n=240)	当該種目に対する興味関心度(平均値)			
		とても増えた (n=60)	まあまあ増えた (n=141)	あまり増えていない (n=30)	全く増えていない (n=9)
選手達のすごいプレーや技	4.35	4.63	4.40	3.73	3.75
レベルの高い試合・ゲーム	4.25	4.59	4.29	3.57	3.63
セレモニー・イベント	3.25	3.71	3.27	2.53	1.80
テレビ・CM・新聞などで(当該種目)が取り上げられたこと	3.37	3.66	3.44	2.66	2.88
有名な選手が競技に出場していたこと	3.39	3.96	3.29	2.76	3.50
長崎県の選手達との交流	3.26	3.79	3.09	3.03	3.25
長崎県の選手達の成績	3.81	4.20	3.75	3.36	3.63
他の県の選手達の成績	3.57	4.24	3.49	2.83	2.88
(当該種目)で使用された会場の印象	3.85	4.25	3.83	3.11	3.86
自分の身近で競技に出場した選手の成績	3.84	4.19	3.80	3.53	3.00
自分の住んでいる近くで試合があったこと	3.81	4.33	3.70	3.47	3.38
国体のためのボランティア活動	3.56	3.95	3.47	3.36	2.83
長崎県の選手達が長崎県のために頑張っている姿	4.50	4.71	4.48	4.30	4.00